

国連世界野生生物の日には、ワシントン条約が1973年3月3日に採択されたことを記念し、世界各地でイベントが開催されました。2018年のテーマは「大型ネコ科-危機にある捕食者」でした。イベントの公式サイト的大型ネコ科を学ぶページから、危機にある種の現状をご紹介します。

● トラ

大型ネコ科の中で最も絶滅が迫っているのは、アジアに分布するトラです。生息域は歴史的な分布域のわずか4%で、野生のトラの生息数は3,900頭以下になってしまいました。骨や生殖器など身体部分はアジアで伝統薬にされます。また人間や家畜との軋轢、パームオイルプランテーション開発による生息地の喪失も脅威となっています。

● チーター

かつてはアフリカ大陸からシナイ半島、インド亜大陸西部に分布していましたが、91%の生息地が失われ、今はわずか7,100頭ほどになってしまいました。アジア系チーターはわずか50頭がイランの保護区に生息しています。家畜への被害は小さいにもかかわらず農民によって殺されたり、毛皮や生きた個体が違法取引されたりして減少しています。

● ライオン

アフリカ大陸だけでなく、歴史的にはギリシャからインドまで生息していたライオンですが、現在1,000頭以上の野生のライオンが生息する国は7か

国になってしまいました。人間による肉のための食用の野生動物の乱獲はライオンの個を減らし、他の動物をねらったワナにかかってしまうこともあります。開発による生息地の断片化や、観光狩猟、骨などがアジアで伝統薬として利用されることも危機の要因となっています。

● ヒョウ

ヒョウはアフリカ大陸、ユーラシア大陸に広く分布していましたが、中央アジア、スリランカではIUCNのレッドリストで危機(EN)、中東、ロシア、ジャワ島では深刻な危機(CR)にリストアップされています。ヒョウは人のくらす場所の近くでも生き残ることができ、人間との軋轢のために殺されます。また毛皮や骨など身体部分を伝統薬にする目的に密猟され、また観光狩猟で生息数が減少している地域もあります。

● ジャガー

中南米に生息するジャガーは、毛皮目的に乱獲され、1973年にワシントン条約によって規制されるまで、毎年1万8千頭も殺されました。現在は農地開発による生息地の減少と断片化、人間による狩猟の影響でジャガーの個となる動物の減少が脅威となっています。野生の個が減少したために家畜をねらうようになったジャガーは牧場主によって殺されることも脅威になっています。

● ユキヒョウ

ユキヒョウはチベット高原を中心に中央アジアの高地に生息しています。毛

皮はとても高額で取引され、骨はアジアの伝統薬に使うため密猟されます。個となる野生のヒツジやヤギも狩猟によって減少しています。家畜を襲うため、予防や報復のために殺されます。牧畜との軋轢を解決するための動機づけとして、家畜の囲いの強化、ワクチン接種、手工芸品や代替生計、放牧の休止などのプログラムが行われています。

● ビューマ

北中南米に広く分布するビューマは、開発による生息地の減少と断片化、個になる動物の減少が脅威になっています。北米の東側はフロリダを除き絶滅してしまいました。中南米のビューマの生息数は分かっておらず、多くが衰退している可能性があります。



国連世界野生生物の日2018のキャンペーンイラスト

出典 <http://www.wildlifeday.org/content/learn>

JWCS 認定特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

設立: 1990年 NPO法人格取得: 2001年 認定取得: 2014年

名誉会長: 小原秀雄(女子栄養大学名誉教授) 会長: 安藤元一(ヤマザキ学園大学教授) 副会長: 小川京(東京学芸大学名誉教授) 森川純(徳島大学名誉教授)

事務局長: 鈴木希理恵 理事: 永石文明(精工コローバス) 並木美砂子(帝京科学大学教授) 古沢広祐(国学院大学教授)

監事: 磯田厚子(女子栄養大学教授) 顧問: 若田好宏(元・中学高校教員) 山根壽一(京都大学総長)

〒180-0022

東京都武蔵野市境1-11-19 モット APT102

Tel&Fax: 0422-54-4885

E-mail: info@jwcs.org <http://www.jwcs.org>

【会費・寄付のご送金先】

郵便振替 00160-9-715145

加入者名 野生生物保全論研究会

正会員年間 5,000円

表紙: チーター

JWCS通信 2017年度通巻83号

2018年3月発行

発行人: 安藤元一

編集: 鈴木希理恵

デザイン: 土肥優子